

小学生のネット依存4.2%、人間関係のトラブル5.2%。ネット利用時間が長いほど高率にとやま安心ネット・ワークショップ事業の結果より

【目的】

小学生においてインターネットの利用時間の長さは、健康や学力に関連があることがわかっています。また、ネット依存は、親が知らないところでの課金、人間関係のトラブルなどの問題を引き起こすことが報告されています。本研究では、小学生のインターネット依存とオンラインの危険行動について調査をおこないました。

【方法】

今回の研究は、富山県教育委員会が実施した「とやま安心ネット・ワークショップ事業」の一環として2018年7～9月に富山県内の4～6年生の小学生13,092名を対象として行った調査を分析したものです。全体の回収率は94.2%、最終分析数は12,130名（90.4%）でした。調査内容として、ネットの利用時間やYoungによるネット依存尺度（YDQ）に加え、課金や動画投稿、人間関係のトラブル、知らない人と会った経験など、オンライン上の危険行動を調査しました。

【結果】

- ・ネット依存や危険行動をする児童は40人学級においておよそ1,2名存在

ネット依存は全体で4.2%（男子5.2%、女子3.2%）でした。また、危険行動については、課金の経験が21.6%（男子31.3%、女子11.5%）、動画投稿は6.6%（男子6.6%、女子6.6%）、けんかなどの人間関係のトラブルは5.2%（男子7.0%、女子3.1%）、ネット上で知り合った知らない人と会った経験は2.4%（男子3.5%、女子1.4%）でした。危険行動の割合から、40人学級の場合、ネット依存の状態である児童は平均で2名程度、知らない人と会った経験のある児童は1名程度存在することになります。

- ・平日のネット利用時間が長いと危険行動が増す

ネット依存は平日4時間以上の群で（4時間未満に比べて）17.6%と非常に高率でした。危険行動では、課金や動画投稿、人間関係のトラブルは2時間以上の群で高率でした。

ネット時間(平日)とネット依存・危険行動

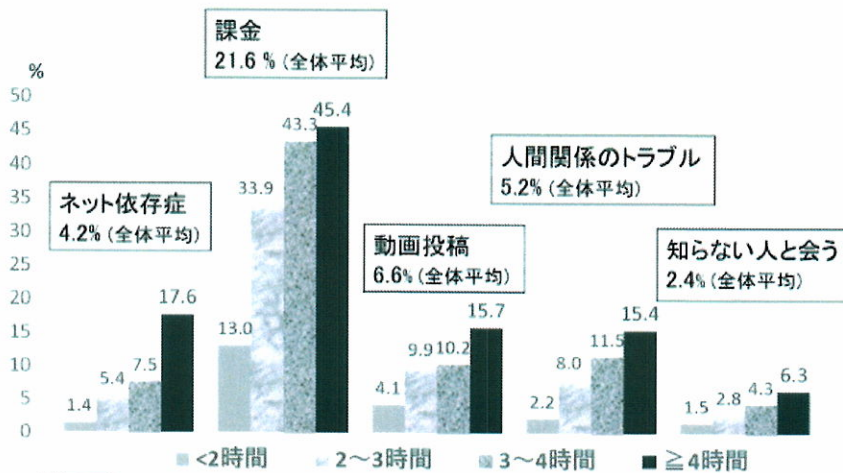


図. 1 Yamada et al. J Epidemiol (令和2年8月8日, 早期オンライン掲載)

・児童の生活習慣だけでなく、家庭・社会因子もネット依存に関連

ネット依存に対しては、ネット利用時間と運動不足、遅い就寝時間といった児童自身の生活習慣と強い関連を示しましたが、それらの要因を調整しても、「現実社会で友人がいない」、「家庭でのルールがない」、「親子の会話がいない」といった項目も関連を示しました。

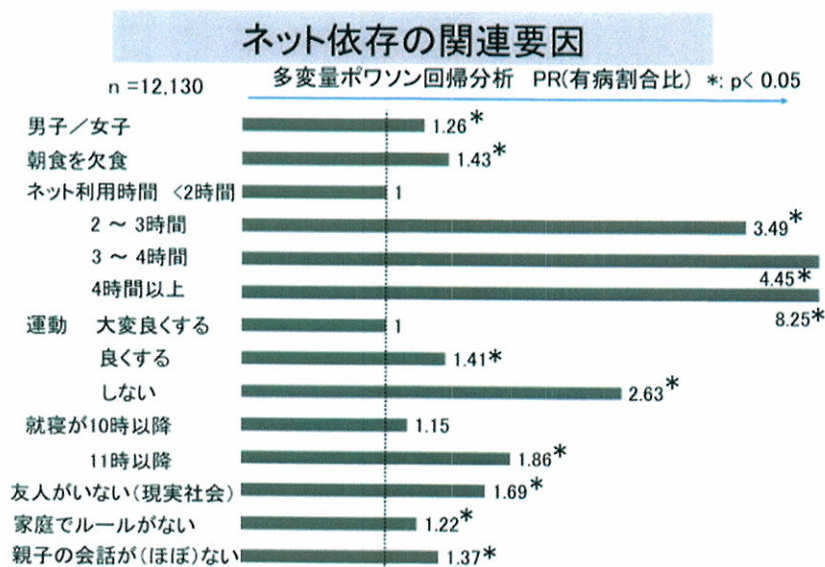


図. 2 Yamada et al. J Epidemiol (令和2年8月8日, 早期オンライン掲載)

【結論】

小学生においてもネット依存や危険行動は稀ではないことがわかりました。コロナ禍の影響もあり、ネットは欠かせないものとなっていますが、今一度、家庭内で使用時間や使用方法について、子どもと話し合う必要があります。

【出典】

Yamada M, Sekine M, Tatsuse T, Asaka Y. Prevalence and associated factors of pathological Internet use and online risky behaviors among Japanese elementary school children. Journal of Epidemiology . (令和2年8月8日オンライン掲載URL:) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/advpub/0/advpub_JE20200214/_article/-char/en